

二人三脚で踏み出した新たな一歩 仕事と子育てを両立した理想の暮らし

神奈川県から移住し、現在は洋菓子店を営む小磯さんご夫婦。子どもとの時間を大切にしながら、今日も笑顔でお客様を迎えます。

家族で過ごす大切な時間を再認識

伸太郎さんは毎朝6時頃、薄暗いうちから厨房に立ち、仕込みを開始。真弓さんは子どもたちの朝食の準備や保育園の送迎を済ませ、9時頃からお客様を迎える準備を始めます。

「オープン前には必ず二人でコーヒーを飲みながら一日の段取りを確認するんです。一息つける時間ですね」

閉店時間は夕方5時半。営業中、二人はそれぞれの役割に没頭しますが、繁忙期には帰宅が遅くなることも。しかし、以前とは仕事後の過ごし方にも変化があったと伸太郎さんはいいます。

「一人で飲みに行かなくなりましただね。働き方の変化で家族との距離が縮まり、その必要性を感じなくなったのかも」
休日は家族でお気に入りの羽生水郷公園へ。子どもたちが元気に走り回る姿を見守りながら、ゆったりとした時を過ごし、日々の疲れを癒しています。

移住で実現理想のライフスタイル

「仕事も子育ても妥協しない」ライフスタイルを実現させた小磯さんご夫婦。長女の出産を契機に、真弓さんの故郷でもある羽生市への移住を決心したことが、人生の転機となりました。

「子育てに適した静かな住環境はもちろん、保育園などのサポート体制が整っていたので、仕事にも集中できました」

また、生活する中で感じたのは、これまでと異なる利便性でした。

「都内近郊は、かえって不便に感じることもありました。羽生市は、敷地が広く駐車場も充実している場所が多い。思い立ったら気軽に出かけられます」

二人が現在の暮らしを始めて約1年半。自身の移住経験において、後悔や苦労は何もなかったそう。今後も理想のライフスタイルを満喫しつつ、たくさんのお客様が集うカフェスペースをつくりたいと次の夢を語ってくれました。



CASE-02

1

Profile

こいそ しん たろう まゆみ
小磯伸太郎・真弓さん

神奈川県川崎市から移住
(2018年)

夫：伸太郎さん(41歳)、妻：真弓さん(39歳)、長女：千紗さん(4歳)、長男：晃太郎さん(2歳)の4人家族。

伸太郎さんはフランスにルーツを持つベーカリーで17年間下積み。羽生市へ移住後、市商工会の創業支援セミナーで経営の知識を身に付け、令和元年7月に洋菓子店「パティスリープティブラージュ」を開業した。



3



2

1. ショーウィンドウには、伸太郎さんが心を込めて書き上げたポップと彩り豊かなケーキが所狭しと並びます
2. 「おいしかったよ」。その言葉が二人のモチベーションに
3. 背中で互いの存在を感じながら、作業に没頭します